

2018

事業報告書



特定非営利活動法人

河北潟湖沼研究所

Kahokugata Lake Institute

流域の森や農地に支えられた汽水生態系の復活により、
河北潟から豊かさを持続的に享受できる地域を目指します。

河北潟湖沼研究所

＜ 河北潟湖沼研究所が目指す河北潟の姿 ＞

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

ごあいさつ

日頃より河北潟湖沼研究所の活動にご支援をいただき心より御礼申し上げます。

2018年度は、新しい河北潟ビジョンの発表から2年目の取り組みとして、流域を視野に入れた活動を展開しました。水田の生物多様性を守る「生きもの元気米」の取り組みや、協働の水辺管理を進める外来植物除去活動を、河北潟に清浄な水を供給する流域のシステムの再生につなげていくことを強く意識して展開しました。上流域と下流域を巡るツアーは、流域内の人の交流を促進することとともに水のつながりを意識する地域をつくりたいという思いがこめられています。河北潟周辺から離れて実施した森下川中流域のみなさまとのワークショップでは、金沢大学、北陸先端技術大学、東京工業大学及びエコロジカルデモクラシー財団のみなさまも参加されてのたいへん有意義な取り組みとなりました。

河北潟と日本海とのつながりを取り戻す第一歩として、これまで視察や交流を深めてきた日本海側の汽水域の研究者のみなさまのご協力をいただき世界湖沼会議の自由集会を主催することができました。河北潟の再汽水化に向けた研究として研究グループを立ち上げ、勉強会を始めています。さまざまな塩分濃度の湖がある三方五湖への視察も行いました。河北潟の再汽水化には、いくつものハードルがあり、特に再汽水化することにより河北潟の環境が本当に改善するのかについても、まだまだ解明しなければならないことがたくさんあります。しかし、河北潟の水質が悪いまま地域の人々が河北潟に対して希望が持てないでいる状況はなんとしても解決しなければなりません。当面は、そのための方策として再汽水化による問題解決の可能性をさらに追求していきます。

どうか、私たちのこうした取り組みにご賛同いただき、さらなるご支援をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所 理事長 高橋 久

河北潟の水を再生したい！

2017年に掲げたビジョンを実現し、河北潟の水を再生するためどのように活動を展開していくか。
2018年度は情報収集や人的交流に力を入れました。また、「河北潟総合研究」発行や「河北潟研究奨励助成」の実施など、河北潟の調査・研究も継続的にを行っています。

課題 再生するための方法を検討する、河北潟に関する情報を集め、分析し、再生の道すじを提案する

取組 他地域の海跡湖との情報交換、情報収集、現地調査の実施
専門家によるセミナー、シンポジウム等の開催
河北潟総合研究発行と河北潟研究奨励助成の実施

2018年度の成果 ワークショップ、シンポジウム、セミナー実施
他地域の事例や専門家による助言もふまえた
次年度以降の調査研究計画の策定
河北潟総合研究発行（流域流入水に関する論文発表）

ワークショップ 日本海側汽水域の現状と生態系機能の再生

10月16日18:00～20:00

茨城県つくば市で開催された第17回世界湖沼会議内で自由集会として実施

潮位差の小さな日本海側には干潟はほとんど存在しませんが、生物生産性の高い海跡湖が数多く存在しています。しかしその多くは干拓事業や汚濁負荷の増大など、様々な人為的影響を受けています。干拓事業に伴い調整池として淡水化された汽水湖、低湿地帯の排水事業に伴い縮小・消滅した湖沼、港湾建設や開削によって海域化した汽水湖、いったんは淡水化された後、再び汽水となった湖など、汽水域としての存在自体が変更される大規模な改変が行われています。こうした日本海側の海跡湖が現在までにどのような改変を受けてきたのか、生態系の現状と今後改善すべき課題を持ち寄ることで、いかにして生態系機能を回復するか、その手掛かりを得ることを目的とし、ワークショップを実施しました。

各地の事例として4つの湖沼を取り上げました。1) 淡水化がはかられたが事業中止となった島根県の宍道湖・中海、2) 淡水化されたのちに再び汽水化がおこなわれた鳥取県の湖山池、3) 日本最大の干拓事業が実施された秋田県の八郎潟、4) 干拓事業により淡水化し汚濁の続く石川県の河北潟です。これらについて情報共有を図りました。

ワークショップの詳細は通信「かほくがた」24-3に掲載しています。下記URLからご覧いただけます。

● 通信「かほくがた」
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/newsletter.html>



かほくがた

＜ プログラム ＞

「日本海側汽水域の特徴」（永坂正夫 金沢星稜大学）
「八郎湖の現状と課題」
（近藤 正 秋田県立大学生物資源科学部）
「河北潟の現状と課題」（高橋 久 河北潟湖沼研究所）
「宍道湖・中海の現状と課題」
（竹下幹夫 宍道湖・中海汽水湖研究所）
「湖山池の現状と課題」（日置佳之 鳥取大学農学部）
「質疑応答とまとめ」
（コメンテーター 山室真澄
東京大学大学院新領域創成科学研究科）
（座長 永坂正夫 河北潟湖沼研究所）



*ワークショップ実施にあたり、日本海側の海跡湖に関わる研究者のご協力をいただきました。また地球環境基金からの助成金を活用させていただきました。

シンポジウム河北潟流域保全にラムサール条約を活用できるか？

2019年3月17日(日) 13:00～17:30 近江町交流プラザ集会室

河北潟は、多様な野鳥が生息し、シギ・チドリ類の渡りの中継地としても、コハクチョウをはじめとする多くの水鳥の越冬地としても重要な湿地です。河北潟自然再生協議会などの市民の取り組みの中で、ラムサール湿地登録を目指した活動が続けられています。河北潟が鳥獣保護区特別保護地区に指定されていないことや、河北潟干拓地及び周辺農地の営農者に制約がかかる可能性といった観点から、現在のところ自治体としての取り組みとはなっていません。しかし全国的には、ラムサール条約と地域農産物のブランド化をむすびつける取り組みなど、ラムサール条約が地域の農業やその他の産業にとってメリットとなる状況も生まれています。そこで、ラムサール条約について詳しい識者をお呼びして、河北潟のラムサール条約登録を進めることによって、流域の環境保全と賢明な利用が促進される可能性について探りました。

シンポジウムでは趣旨説明にはじまり、20年の取り組みを経て新たに課題を整理しつくられた研究所の河北潟流域ビジョンについて説明がされました。そしてラムサール登録湿地を増やす活動をしているラムサール・ネットワーク日本のお2人から、ラムサール条約について詳しい解説がありました。また、実際に河北潟で調査をされてきた方々より、データに基づいた野鳥の現状や、長年続けられている野鳥の保護活動等が報告されました。河北潟はラムサール条約に登録される条件は満たしていることが確認され、ディスカッションでは、様々な意見交換がおこなわれました。登録後に観光地化したい期待が生まれることや、「賢明な利用」の解釈によっては、持続可能な社会とは違った方向にすすむ懸念もあること、湿地の価値を長い年月で評価し、地域ビジョンの合意形成をしていくことが重要であることが確認されました。

< プログラム >

○主催者より挨拶、報告

「シンポジウムの趣旨について」河北潟湖沼研究所 高橋 久
「河北潟湖沼研究所のビジョン」河北潟湖沼研究所 永坂正夫

○基調講演

「世界会議に出てみよう・ドバイCOP13報告」ラムサール・ネットワーク日本 後藤尚味氏

○ラムサール条約と登録した地域の事例

「ラムサール条約登録するためには」ラムサール・ネットワーク日本 浅野正富

○報告

「ガンカモ類にとつての河北潟の重要性―国内のラムサール条約湿地との比較から―」(公財)日本野鳥の会 田尻浩伸

「河北潟と高松海岸の鳥類」山階鳥類研究所 協力調査員 中川富男

「河北潟のカモ・コハクチョウ」日本野鳥の会石川 中村正男

「河北潟における野鳥保護の取り組み」森の都愛鳥会 本間勝美

○パネルディスカッション

河北潟での課題と展望 ファシリテーター 河北潟湖沼研究所 高野典礼



後藤尚味氏



浅野正富氏



田尻浩伸氏



中川富男氏



中村正男氏



本間勝美氏

セミナー・湖沼流域モデルを活用した水質長期変動の解明と流域管理の可能性

2018年6月12日(火) 18:30～20:30

講師：小松英司氏(明治大学法環境法センター／株式会社環境創生科学研究所)

近年になりどこでも排水対策が強化され、汚濁負荷の流入は減っているはずですが、霞ヶ浦でも河北潟でもなかなか水質は改善されていません。その理由を、霞ヶ浦での事例をもとにお話をいただきました。小松氏らによる研究では、地下水の影響がとても大きいと考えられており、その影響は水全体の約4割もあるのだそうです。そして今現在出てきている地下水は、20年から30年前のもので、昔出された汚濁負荷が現在になって地下から湖にでてきていると考えられています。現在対策をすすめていても、過去に蓄積された地下水の影響がこれからも続くことが予想されます。流域での水質改善にむけて、現在の対策だけでなく、過去から知る必要があることがわかりました。



セミナー・河北潟流域再汽水化プロジェクト

2019年2月22日(火) 19:00～21:00

講師：奥川光治氏(富山県立大学工学部環境工学科准教授)

尾上健治氏(環境アセスメント学会)

河北潟の水質改善、河北潟流域の環境保全活動をすすめるうえで、かつて汽水湖であったが現在は淡水湖となった河北潟では、その再汽水化が大きな鍵となります。再汽水化が及ぼすメリットとデメリット、リスクを考えながら、どのように活動、調査を進めていくべきかを検討しました。比較的浅い河北潟の特性を把握し、流域の栄養塩の循環・蓄積メカニズムを検討すること、長期予測性の確立と今後の流域負荷・湖沼水質の長期予測、林地負荷、農地負荷、下水道負荷の削減と水質予測(閾値の検討)等項目ごとに話し合いました。実現のためには法規制、流域の社会・経済を踏まえた協議システムを確立させることが重要となります。過去に行われた河北潟の水質予測モデルの解析結果についても講義いただき、これからの活動展開を考えるセミナーとなりました。



調査研究

河北潟総合研究 21巻発行

2019年3月、機関誌「河北潟総合研究」21巻を発行しました。「河北潟総合研究」は、河北潟や河北潟地域の自然、環境、生活、文化、歴史等に関する研究成果の発表の場として、また、地域環境保全・地域振興に関する学際的・総合的な研究交流の場として機能することをめざして、毎年発行しています。



<河北潟総合研究 21巻 目次>

原著

石川県金沢市におけるハッタミズの生息状況と生息環境の変化
高橋 久・川原奈苗・番匠尚子
河北潟西部承水路と東部承水路で捕獲されたカメ類
野田英樹

調査報告

内灘砂丘湧水の湧出量の季節変化と流達時間推定
永坂正夫・高野典礼・福原晴夫・高橋 久
普正寺の森屋川左岸湿地帯(石川県金沢市)における水温及び電気伝導度を中心とした環境調査報告
福原晴夫・永坂正夫

視察報告

大韓民国「順天湾」視察レポート
川原奈苗・高橋 久

河北潟研究奨励助成実施

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積を図り地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みの一つとして、専門的知識を持った研究者や学生の方々、持続的社会の実現を目指し活動을続けてこられた方々が取り組む研究を奨励し助成を行っています。2017年、2018年はソーシャルグッドプラットフォーム「gooddo」による支援金および賛同者からの寄付を原資に助成を行いました。

「河北潟総合研究」公開しています

河北潟総合研究はウェブで公開しています。冊子は一部1,000円で販売もしております。購入希望の方は河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。



河北潟総合研究

ご支援をお願いいたします

河北潟研究奨励助成は、みなさまからのご支援で成り立っています。河北潟の環境保全のための研究へのご支援・ご寄付をお願いいたします。「河北潟研究奨励助成」への使途を指定してのご寄付も可能です。



ご寄付はこちら

農地と生きものをまもりたい！

課題 河北潟地域の田んぼの生きものが減っている
田んぼが河北潟の水質負荷要因となっている

取組 田んぼの生物多様性の見える化
必要のない農薬使用を減らした農地を増やす



生きもの元気米

河北潟のまわりには田んぼが広がっています。田んぼというと生きものがたくさんいる自然豊かなところというイメージを持たれる方も多いかと思います。しかし、現在の田んぼは昔と比べると生きものの種類も数も大幅に減少しています。大きな原因は、殺虫剤の一斉空中散布と、生きもののすみかとなる畦の草をすべて枯らしてしまう畦の除草剤散布だと私たちは考えています。

2014年より、この問題を解決する取り組みとして、生きもの元気米を始めました。生きもの調査を通して田んぼの様子を確認しながら、必要性の低い農薬をなるべく使わない農業を広げてゆき、お米を作る人、田んぼの環境、田んぼの生きもの、お米を食べる人、みんなが元気になることを目指した取り組みです。

生きもの元気米では、①農薬の空中散布をしない＋浸透性殺虫剤(ネオニコ含む)を使用しない、②畦の除草剤を使わない、という2つの条件で農家と契約し、栽培圃場では河北潟湖沼研究所が生きもの調査を実施し、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証をしています。環境保全型の農業を実践し、田んぼの生きものが減っている大きな原因を取り除き、農地の生物多様性を保全するとともに、消費者に対し田んぼの生きもの調査結果をPRし、農地の環境保全への意識を高め、安心して食べられる農産物を届ける活動です。

参加農家、お米を購入し食べて応援してくださる消費者、田んぼ1枚ごとにの生きもの調査を行い、結果を公表するとともに、田んぼ1枚ごとにお米を管理販売している河北潟湖沼研究所の協働により実現している取り組みです。



株式会社こよみでは「麵処こよみ」アピタ松任店でメニューに生きもの元気米を使っています！

2018年度の成果

農薬を減らした圃場面積の増加 生きもの元気米生産量増加

生きもの元気米に参加している農家さんの中には、20枚ほどある田んぼをすべて無農薬に切り替えた方もいます！

圃場面積

2014年
10,834m²

2017年
22,780m²

2018年
26,748m²

*圃場のうち3,510m²は2016年より蓮田(レンコン)になりました。

取 扱 量

2014年
1.6トン

2017年
6.1トン

2018年
6.5トン

生きもの元気米
情報はこちら



持続可能な農業をまもりたい！

課題 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、
農地の細やかな手入れが難しくなっている

取組 農地での協働作業を実施。農地と市民をつなぐ体験型田んぼ作業や、農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動実施

七豊米

七豊米は2012年より開始しました。日々の農作業はスタッフとボランティアの方で行い、農薬・化学肥料を使わずにお米を栽培しています。除草、泥上げ、苗代作り、田植え等農作業体験の場を提供するとともに、河北潟地域の農地の環境や、生きものについて学んでいただける場を提供しています。田んぼと土水路の生きものを守り、人と農地をつなぐ窓口となっています。ここでは主に親子を対象とした体験イベントも実施しています。田んぼの生きもの、田んぼの脇にある土水路にすむ生きものを守ること、そして地域の方に農地に実際に触れていただき、昔ながらの米作りを伝えていくことを目指して、2枚の田んぼ(約1400m²)で活動をしています。ここで収穫したお米、また活動そのものを「七豊米」と呼び、収穫したお米は、参加者に配分するとともに販売し、活動資金としています。



2018年度の成果

七豊米田んぼ作業にのべ163人参加
田植え、観察会、稲刈りイベントを実施

外来植物除去活動

河北潟周辺の水辺に繁茂する外来植物チクゴスズメノヒエは、沿岸の田んぼの水路にも広がり、水の流れをふさいだり、在来植物の生息場所を奪うなどの問題があります。対策にはこまめな手入れが必要です。他団体と協力しながら、河北潟湖沼研究所は除去活動実施場所の選定、対象植物の調査や記録、活動当日の実施運営等を行っています。個人では難しい除去活動を、協働で実施しています。



実施：河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力：河北潟湖沼研究所

2018年度の成果

協働で3日間、田んぼ水路の外来植物
除去活動を実施、のべ88人参加

潟と砂丘と人で環をつくりたい！

課題 河北潟や周辺農地と都市部をもっと近づけたい
砂丘地の畑が河北潟の汚濁負荷の一因となっている

取組 金沢市中心部で農産物を通じて河北潟や活動をPR
内灘砂丘地の畑で野菜を無農薬、無化学肥料栽培

すすめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わず野菜を栽培しています。河北潟には内灘砂丘からも水が流れ込んでいます。砂丘地の畑で農薬や肥料の量を減らしていくことは、河北潟の水質改善にもつながります。河北潟と内灘砂丘で、水のよい循環を作り、地域の環境問題が改善することを目指しています。栽培した野菜は、ゆうぐれ金曜マルシェでの直接販売等を通じて、河北潟地域の農産物として、環境保全活動とともにPRをおこなっています。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で「農家が届けるおいしい週末」をコンセプトに、冬季を除いた毎週金曜夕方、河北潟周辺や干拓地で栽培された農産物を金沢駅周辺住民に直接届けるマルシェを実施運営しています。すすめ野菜や生きもの元気米の他、河北潟干拓地や沿岸部の農家さんも出店し、農産物と共に河北潟の自然や環境保全活動についてもPRをしています。都市部住民の方と定期的に直接対話できる貴重な場です。



2018年度の成果

無農薬での野菜栽培を継続し、ゆうぐれ金曜マルシェ等での販売を通じて、河北潟の農産物や自然をPR

ゆうぐれ金曜マルシェを33回実施

マルシェが窓口となった河北潟の活動参加者ができた



河北潟流域の人をつなぎたい！

課題 河北潟に流入する河川や水路の上中流域との連携不足
河北潟流域全体での取り組みが不足

取組 他団体との協働イベントを企画、事務局運営
上中流域も含めてワークショップやイベントを実施

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に数百名規模で実施している河北潟の一斉清掃活動です。2018年は残念ながら実施当日は強風と雨で全体での実施は中止せざるを得ませんでしたが、有志により一部実施しました。そして2019年度の実施にむけて、実行委員会の運営等をすすめています。河北潟湖沼研究所は運営事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、諸手続き、チラシやポスター制作、会場の草刈り等さまざまな役割を果たし、このイベントの裏方として活動しています。

河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催：河北潟湖沼研究所

河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動をPRするとともに来場者に様々な体験をしてもらいます。2018年は10月21日(日)に実施、約350名が参加しました。河北潟湖沼研究所は準備段階から中心としてかわり、実行委員会の開催や他の共催団体との調整、広報等を行い、また当日はヨシ舟乗船体験等のプログラムを実施しました。



10月21日河北潟自然再生まつり



2月9日ワークショップ

2018年度の成果

河北潟自然再生まつりに350人参加

上中流域の人との交流が進んだ

流域各地の活動や自然環境について理解を深めることができた

ワークショップ・森下川流域の自然と人とのつながりを考えよう

2019年2月9日(土) 13:30～16:30 薬師谷公民館1階和室
主催：河北潟湖沼研究所
協力：一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団

河北潟に流入する河川の一つ、森下川中流域にある森本地区で、この地域の人の暮らしと自然との関係は、どう変遷してきたのか、これからどのような人と自然との関係が求められるのか、地域の人たちと、地域外の人たちが一緒になってみんなで考えました。始めに地元の亀田さんに森下川と地域の変遷についてお話を伺い、後半ではエコロジカル・デモクラシー財団の土肥真人さん、吉田祐記さんの進行で「エコデモ発見シート」を使って、地域のつながりを発見していきました。

河北潟流域ツアー

2018年5月26日(金) 8:30～20:00
2018年11月4日(日) 10:00～16:00
主催：河北潟湖沼研究所

河北潟流域の理解を深めるため、流域各地の活動や自然環境について学べるプログラム作成を展望しています。2018年度は試験的に2回実施し、5月は流域各地の環境保全活動をテーマにし、県外や海外の湿地保全活動に関わる方々にご参加いただきました。11月は上流と下流の植物観察をテーマにし、英語通訳のガイドもつけ、県内在住の外国人の方にも多数で参加いただきました。実施にあたっては、森下川上流にある金沢市牧山町の「まっきやま」等外部団体の方にもご協力をいただきました。

※地球環境基金の助成金を活用させていただきました。



11月4日河北潟流域ツアーの様子

ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご協力、ご寄付で成り立っています。
2018年度は、1月から3月までを財政基盤強化のための寄付期間として、みなさまにご寄付をお願いし、
全体で466,464円のご寄付を賜ることができました。また事業活動の面からも企業等のみなさまからの
ご支援をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ご寄付をいただきました

- 財政基盤強化のための寄付期間
計15名の個人及び法人のみなさまより 計466,464円
- 香港上海銀行 300,000円
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 165,000円
「eco保険証券・Web約款選択件数に応じた寄付活動」に基づく寄付金
- その他個人及び団体のみなさまより 計105,126円

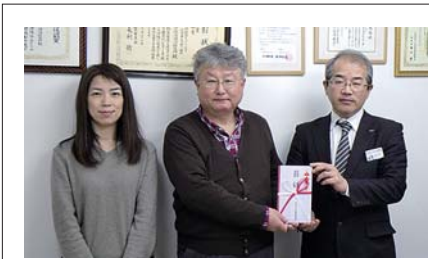
■助成金を活用させていただきました

- 地球環境基金 3,000,000円
活動名：河北潟の水辺保全活動をすすめるための
流域がつながる仕組みづくり
- 未来につなぐふるさと基金 500,000円
活動内容：七豊米、こなん水辺公園での写真教室

■プロボノ支援をいただきました

- サービスグラント ふるさとプロボノ
内容：生きもの元気米のマーケティング調査

認定NPO法人サービスグラントが実施した2018年度の「ふるさとプロボノ」より助成いただき、地域環境を良くしながら農家、消費者、NPO、野生生物のwin-winを目指す「生きもの元気米」のマーケティング調査を実施するとともに、NPOの基盤強化のための新たな自主事業の展開についての多くのヒントをいただきました。お金ではなく、スキルや専門性による支援です。「プロボノワーカー」の派遣に際しては、以前よりお世話になっているパナソニック株式会社と関連会社のご協賛のもと、社員の方々6名による「パナソニック チーム元気米」を結成いただき、自主事業の強化を目標に、7月～11月までに、2回の訪問を含めて、生きもの元気米の取り組みの状況把握、消費者調査、結果取りまとめ、新しい商品展開の提案等をしていただきました。



2月26日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社より寄付金を寄贈いただきました。

地球環境基金助成活動



河北潟流域をめぐるツアーの試験実施やイベント等での河北潟のPR、かほくがたに関するシンポジウムやセミナー等の実施で助成金を活用させていただきました。

未来につなぐふるさと基金



10月21日に「かほくがた写真教室」を実施。キャノンより一眼レフカメラの提供と講師の派遣があり、参加者には自然観察と共に、水辺の動植物撮影を体験していただきました。

ふるさとプロボノ



「パナソニック チーム元気米」のみなさんと(左)
11月におこなった報告会の様子(右)

2018年度決算報告

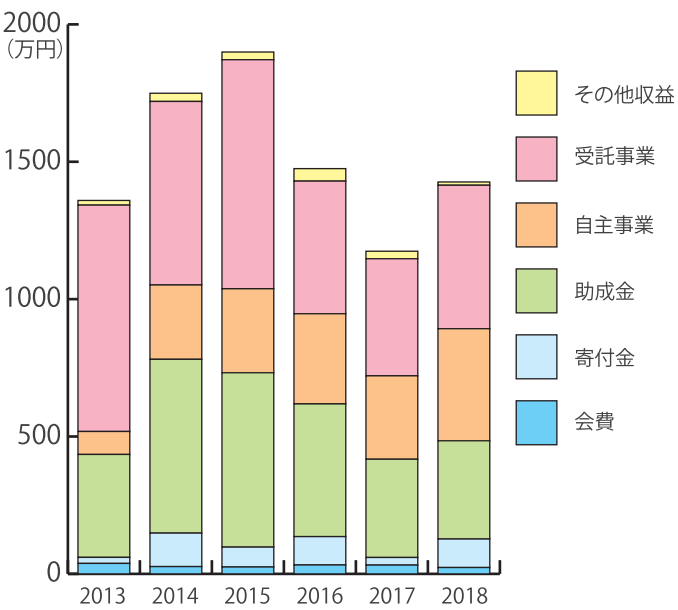
貸借対照表

2019年3月31日	
項目	金額（円）
資産の部	
【流動資産】	
現金及び預金	1,095,170
売掛金	2,978,151
未収補助金	1,032,000
商品	670,000
流動資産合計	5,775,321
資産の部合計	5,775,321
負債の部	
【流動負債】	
未払金	114,076
未払費用	493,000
未払法人税等	71,000
預り金	11,799
流動負債合計	689,875
負債の部合計	689,875
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産	5,039,249
当期正味財産増減額	46,197
正味財産の部合計	5,085,446
負債及び正味財産合計	5,775,321

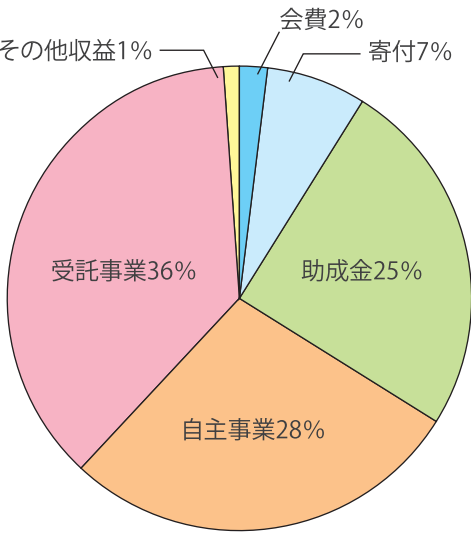
活動計算書

自 2018年 4月 1日至 2019年 3月31日			
科目	特定非営利活動にかかる事業	その他の事業	金額（円）
【経常収益】			
受取会費	232,000		232,000
受取寄付金	1,036,590		1,036,590
受取助成金等	3,576,360		3,576,360
事業収入	7,724,564	1,587,600	9,312,164
その他収益	118,257		118,257
経常収益合計	12,687,771	1,587,600	14,275,371
【経常費用】			
事業費			
人件費	6,443,891	827,739	7,271,630
その他の費用			
売上原価	1,745,870		1,745,870
租税公課	1,050	2,000	3,050
地代家賃	47,651		47,651
諸謝金	383,974		383,974
リース料	811,476	462,284	1,273,760
印刷製本費	273,273	120,000	393,273
外注・委託費	292,626		292,626
賃借料・役務費	755,000		755,000
支払手数料	206,409	82,881	289,290
通信費	14,460		14,460
旅費交通費	803,524		803,524
会議費	126,435		126,435
消耗品費	609,019	67,638	676,657
その他	30,974		30,974
管理費			
その他の費用	50,000		50,000
経常費用合計	12,595,632	1,562,542	14,158,174
法人税・住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			46,197
前期繰越正味財産			5,039,249
正味財産合計			5,085,446

経常収益推移(2013～2018年度)



2018年度 経常収益割合



河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動してくださる方、応援してくださる方を待っています。

会員になる

当研究所では随時会員を募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

- 一般会員 年会費 個人12,000円、法人24,000円
研究所の活動目的に賛同いただける方はどなたでも会員になることができます。一般会員は研究所の活動、運営にかかわることができます。活動案内や通信、刊行物等も届きます。
- 友の会会員 年会費 2,000円
友の会は、どなたでも気軽に参加できる枠組みです。会員には活動案内や通信、刊行物等が届きます。

寄付をする

郵便振替、銀行振込、クレジットカードでのご寄付で当研究所の活動をご支援いただけます。

- 郵便振替
ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
＊通信欄に寄付金とご記入ください。＊ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- 銀行振込
楽天銀行 第一営業支店 普通 093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキュウジョ
- クレジットカード
下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>

クレジットカード
でのご寄付はこちら



購入する

生きもの元気米やすずめ野菜等を下記ショップよりご購入いただけます。

- 河北潟湖沼研究所のお米屋さん(生きもの元気米・七豊米等)
<http://kahokugata.cart.fc2.com/>
- すずめ野菜
<http://suzumeyasai.cart.fc2.com/>

お米屋さん



すずめ野菜



観察会や調査をする

河北潟地域での自然観察会や体験イベントの実施、地域の自然環境に関する調査研究等を承っています。
まずはメールやFAX、お電話でお問い合わせください。

NPO法人河北潟湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

電話076-288-5803 fax076-255-6941

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

URL <http://kahokugata.sakura.ne.jp>

●Instagram・・・[kahokugata_lake_institute](#)

●twitter・・・[@kahokugatalake](#)

●facebook・・・[kahokugatalake](#)

